

都市再生整備計画 事後評価シート
山辺地区(第2期)

平成31年2月

山形県山辺町

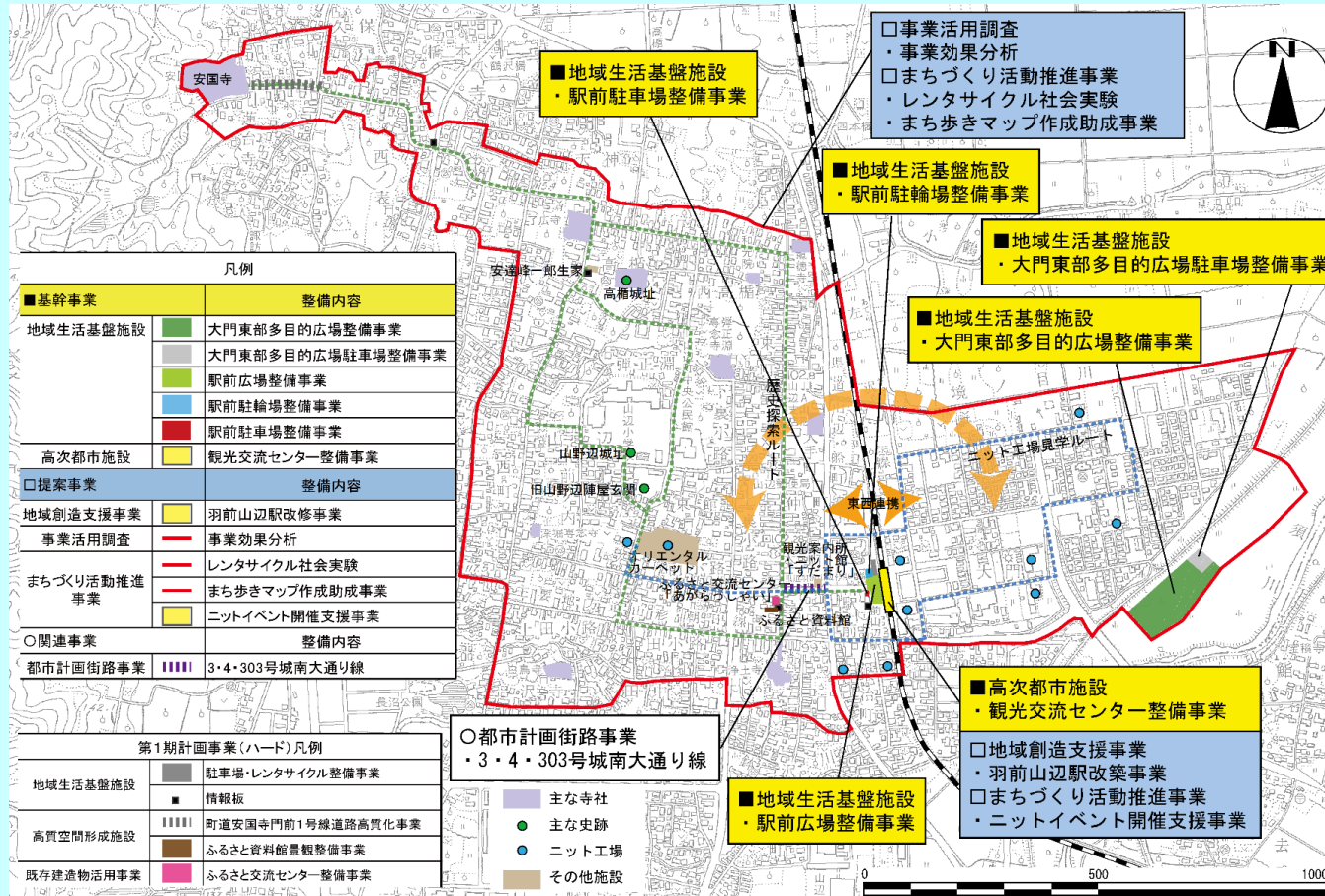
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県		市町村名	山辺町		地区名	山辺地区(第2期)		面積	139.4ha		
交付期間	平成27~31年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	148.3百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	大門東部多目的広場、大門東部多目的広場駐車場、駅前広場、駅前駐輪場、駅前駐車場、観光交流センター								
			提案事業	羽前山辺駅改築事業、事業評価分析、レンタサイクル社会実験、まち歩きマップ作成助成事業、ニッイベント開催支援事業								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業									
	新たに追加した事業		基幹事業									
提案事業												
交付期間の変更		当初	平成27~31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度				
	指標1	観光客数	人/年	204,500	H25	240,000	H31	213,000	△	あり	● 新たな観光資源となる大門東部多目的広場及び観光振興の拠点となる観光交流センターの整備ができなかったこと、また、駅前広場も町単独事業による一部の整備となり本広場において実施予定だったイベントやレンタサイクル社会実験もできなかったため、これまでの推移から想定された以上の数として設定した数値目標を達成することができなかった。	平成31年4月末
	指標2	観光案内所(窓口)利用者数	人/年	949	H25	1,600	H31	- (計測不可)	-	あり		
	指標3	空き店舗数	店	14	H25	11	H31	12	△	あり	● 目標は達成できなかったが、空き店舗数は従前値よりも減少している。駅前駐車場を商店街利用者の利用も可能としたことで実際の利用もみられ、間接的に寄与したと思われる。	
指標4								あり				
									なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1				
	その他の数値指標1	駅前大通りの路上駐車台数	台	15	H29			5			あり	● 路上駐車ほとんどは駅利用者を送迎する自家用車によるものだが、最も路上駐車が多い夕方から夜の時間帯でも、多くの車が駅前駐車場を利用していた結果、駅前大通りの路上駐車が減少した。
その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた							
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
住民参加プロセス				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
持続的なまちづくり体制の構築		YOUBASE会と連携したまちづくりの検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた								
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 活動団体の活動休止に伴い実施できなかった。活動休止前の経験を活かして、イベント開催などを通じて、商店街、教育機関等多様な団体との協働によるまちづくりに取り組んでいく。				

様式2-2 地区の概要

山辺地区(第2期)(山形県山辺町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	従前値	目標値
大目標: 本町の発展を牽引する中心市街地としての賑わい・活力の創出 目標1: 豊かな地域資源を活用した観光交流の促進 目標2: 多くの観光客や住民が利用する商業地の再生 目標3: 地区の住民や事業者によるまちの活性化	観光客数	人/年	204,500	H25	240,000	H31	213,000	H30
	観光案内所(窓口)利用者数	人/年	949	H25	1,600	H31	-	(計測不可)
	空き店舗数	店	14	H25	11	H31	12	H30
	駅前大通りの路上駐車台数	台	15	H29	-	-	5	H30



まちの課題の変化	町の玄関口であるJR羽前山辺駅前には駅前駐車場の整備により、路上駐車場が減少し安全性が高まったと同時に、イベント等の場として活用しやすくなった。商店街利用者も利用できるようになったことで、事後評価委員および町民も高く評価している。また、計画期間中でも観光客は増加し、空き店舗は減少するなど改善の兆しは見えているが、主要事業であった観光交流センター整備などが未実施だったこともあり、計画に位置づけた「更なる観光客の増加」「商業機能の再生」「住民・事業者による活性化」は更なる改善・解決に向け引き続き取り組むべき課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	・観光交流センターの整備 ・駐車場と商店街のつながり強化 ・駅前広場等羽前山辺駅周辺環境の整備

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(計画期間・交付期間)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	大門東部多目的広場	4.0	須川河川敷における多目的広場(A=16,300㎡)の整備			厳しい町の財政事情を勘案して、事業実施は困難と判断して断念した。	想定していた本事業実施に伴う観光客数及び観光案内所利用者数の増加が実現できなかった。	未定	
地域生活基盤施設	大門東部多目的広場駐車場	22.0	大門多目的広場用駐車場(A=2,000㎡)の整備			同上	同上	未定	
地域生活基盤施設	駅前広場	54.0	駅舎機能を有する観光交流センター整備に合わせた駅前広場(A=1,506㎡)の整備			駅舎機能を有する観光交流センター整備(基幹事業)にあわせて、計画期間中における本事業の全面施工は断念した。ただ、一部を町の単独事業として整備した。	影響なし	未定(一部を町単独事業として実施)	
地域生活基盤施設	駅前自転車駐車場	13.0	JR羽前山辺駅の駅前広場整備と連携した駅前自転車駐車場(A=162㎡)の整備			連携して実施する予定であった駅前広場整備にあわせて、本事業の計画期間中の実施は断念した。	同上	未定	
地域生活基盤施設	駅前駐車場	11.9	JR羽前山辺駅の駅前広場整備と連携した駅前駐車場(A=169.41㎡)の整備			連携して実施する予定であった駅前広場整備の計画変更も踏まえて、場所・規模を変更して実施した。	同上	● (H30.8)	
高質空間形成施設									
高次都市施設	観光交流センター	243.1	JR羽前山辺駅の改築に合わせた観光交流センター(A=212.9㎡)の整備			前提となる羽前山辺駅改築事業(提案事業)にあわせて、計画期間中における本事業の実施は断念した。	想定していた本事業実施に伴う観光客数及び観光案内所利用者数の増加が実現できなかった。	未定	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	数値	事後評価	達成度	あり	なし		
指標1	観光客数	人/年			204,500	H25	240,000	H31	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定 ●	213,000 (H30)	事後評価	△		
指標2	観光案内所(窓口)利用者数	人/年			949	H25	1,600	H31	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定 ●	- (計測不可)	事後評価	-		
指標3	空き店舗数	店			14	H25	11	H31	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定 ●	12 (H30)	事後評価	△		

指標	目標達成度の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	近年の観光客数は増加傾向にあり従前値を上回っているが、観光振興に寄与することを想定していた観光交流センターや大門東部多目的広場の整備が出来なかったことで予測していたような増加はしておらず、目標値の達成も難しいと思われる。	観光客数の動向を振り返ると平成24年度からの増加率が近年の中では特別に高かった平成25年度を基準としたことで、目標値の設定が高すぎたとも考えられる。
指標2	評価(目標値計測)対象として想定していた観光交流センター自体の整備が出来なかったため。	
指標3	今回把握した空き店舗12店舗は目標値には届かなかったものの、従前値よりは少なくなっている。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度					
その他の 数値指標1	駅前大通りの路上駐車台数	台	平日における羽前山辺駅前の路上駐車台数を現地調査(平日5日実施)で把握し、最大値を評価値に設定する。	-	-	15	H29	モニタリング	-	-	本計画に基づき実施した駅前駐車場と駅前広場の整備により路上駐車を減少することで、町の玄関口でもあるJR羽前山辺駅周辺における安全かつ利便性の高い空間形成に寄与したことを確認するため	
								事後評価	確定見込み	●		
その他の 数値指標2				-	-	-	-	モニタリング	-	-		
								事後評価	確定見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

町の玄関口であるJR羽前山辺駅前は駅前駐車場の整備により、路上駐車場が減少し安全性が高まったと同時に、イベント等の場として活用しやすくなった。商店街利用者も利用できるようにしたことで、事後評価委員および町民も高く評価している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
YOUBASE会と連携したまちづくりの検討	予定どおり実施した	活動団体の活動休止に伴い実施できなかった。	YOUBASE会	活動休止前の経験を活かして、イベント開催などを通じて、商店街、教育機関等多様な団体との協働によるまちづくりに取り組んでいく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 活動団体の活動休止) ●			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係課(建設課、政策推進課、産業課、町民生活課) 職員(課長・係長・担当者)	平成30年12月6日	建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1							
指標名		駅前大通りの路上駐車台数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	大門東部多目的広場	-	路上駐車のほとんどは 駅利用者を送迎する自 家用車によるものだ が、最も路上駐車が多 い夕方から夜の時間帯 でも、多くの車が駅前 駐車場を利用していら 結果、駅前大通りの路 上駐車が減少した。						
	大門東部多目的広場駐車場	-							
	駅前広場(町単独事業)	-							
	駅前自転車駐車場	-							
	駅前駐車場	◎							
	観光交流センター	-							
提案事業	羽前山辺駅改築事業	-							
	事業評価分析	-							
	レンタサイクル社会実験	-							
	まち歩きマップ作成助成事業	-							
	ニットイベント開催支援事業	-							
関連事業	都市計画街路事業	-							

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	引き続き駅利用者を送迎する車の駅前駐車場の利用を促進する。			
-------	-------------------------------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3		
指標名		観光客数			観光案内所(窓口)利用者数			空き店舗数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	大門東部多目的広場	××	新たな観光資源となる大門東部多目的広場及び観光振興の拠点となる観光交流センターの整備ができなかったこと、また、駅前広場も町単独事業による一部の整備となり本広場において実施予定だったイベントやレンタサイクル社会実験もできなかったため、これまでの推移から想定された以上の数として設定した数値目標を達成することができなかった。	Ⅲ	-	本体となる観光交流センターにあわせ、計測対象となる観光案内所も整備できなかった。	Ⅲ	-	目標は達成できなかったが、空き店舗数は従前値よりも減少している。駅前駐車場を商店街利用者の利用も可能としたことで実際の利用もみられ、間接的に寄与したと思われる。	Ⅲ
	大門東部多目的広場駐車場	×			-					
	駅前広場(町単独事業)	△			-					
	駅前自転車駐車場	×			-					
	駅前駐車場	△			-					
	観光交流センター	××			××			-		
	羽前山辺駅改築事業	××			×			Ⅲ		
事業評価分析	-	-	-							
レンタサイクル社会実験	×	×	×							
まち歩きマップ作成助成事業	×	×	×							
ニットイベント開催支援事業	×	-	×							
関連事業	都市計画街路事業	-	-	-	-	-	-			

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	周辺都市の状況などを踏まえ、ニーズに合わせた既存資源の活用、ソフト施策の充実、これらと連携した観光交流センターのあり方など、これからの町の観光施策を明確にし実行していく。	観光交流センターが様々な資源やソフト施策と連携したこれからの町の観光の核となり多くの人々に利用してもらえる施設となるよう配慮し、町の観光情報を総合的に扱い提供できるような観光案内所(窓口)を設置していく。	駅前駐車場の利用が可能だということを周知することで、商店街利用者の増加を支援する。
------------------	---	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係課(建設課、政策推進課、産業課、町民生活課) 職員(課長・係長・担当者)	平成30年12月6日	建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<p>■さらなる観光客の増加 第1期計画に基づくふるさと交流センター「あがらっしゅい」や情報板、沿道景観の整備などによって、観光資源個々の情報発信や環境充実が図れた面はあるが、各観光資源が連携した施策が不十分となっている。さらに多くの人々が本地区を観光に訪れるよう、JR羽前山辺駅東側の資源も活用しながら第1期計画の取り組みを継承、発展させた、観光資源の連携強化、回遊性の向上などが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光客数の増加(ただし、目標値は未達成) 町の玄関口でもあるJR羽前山辺駅の駅前における駐車場の確保と路上駐車への減少による安全性の向上 	<p>これからの町の観光施策のあり方の検討と、この観光施策に即した観光交流センターの整備</p>	
<p>■商業機能の再生 本地区の商業機能は低下しているが、本地区が担っている「周辺も含めた住民の日常生活を支える」という役割は、住民の高齢化などを踏まえると今後ますます重要になると考えられる。 また、増加を目指す観光客を受け入れ、地域経済に反映できる店舗など商業施設の充実が、町の発展を牽引する役割を担う本地区には不可欠である。そのため、地区外からも訪れやすく、高齢者等も買い物しやすい環境整備を行い、商店街を中心とする商業機能を再生させることが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗の減少(ただし、目標値は未達成) 商店街利用者も利用可能な駅前駐車場の整備 	<p>商業機能の更なる再生</p>	
<p>■住民・事業者による活性化 まちを活性化するためには、主役である住民や事業者が主体となったまちづくりが不可欠である。地区の衰退や高齢化などを踏まえて、住民や事業者が心身ともにやる気をもってまちづくりに取り組むことができるような環境の充実が課題となっている。</p>		<p>イベント等の場となる駅前広場の整備(町単独事業で整備したのは計画の一部)</p>	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	駅前大通りの路上駐車解消	路上駐車が特に多くなる夕方から夜の時間帯に、駅利用者を迎えに来る車を待機時間中駅前広場に駐車するよう誘導する。	・見回り及び啓発活動

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	観光交流センターの整備	あり方も含めた検討の上、その時点における町の観光振興策に即した観光交流センターを整備する。	・財政状況を踏まえた観光交流センター整備
	駐車場と商店街のつながり強化	利用可能であることを住民に広く周知していくことにより、駅前駐車場を利用した商店街への来客増を図る。	・周知活動による商店街利用者の駅前駐車場利用の促進
	駅前広場等羽前山辺駅周辺環境の整備	多くの町民が利用し、観光客等にとっては本町の玄関口となる駅前広場を含む羽前山辺駅周辺を、安全かつ魅力的な空間として整備する。	・駅前広場(未整備部分)の整備(歩道等歩車分離の確立) ・周知・指導による適切な駐輪の推進

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

周辺都市の状況などを踏まえ、ニーズに合わせた既存資源の活用、ソフト施策の充実、これらと連携した観光交流センターのあり方など、これからの町の観光施策を明確にし実行していく必要がある。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	観光客数	人/年	204,500	H25	240,000	H31	確定	213,000	△	あり	→	平成31年4月末	平成30年度の年間観光客数を産業課から入手	
							見込み ●			なし ●				
指標2	観光案内所(窓口)利用者数	人/年	949	H25	1,600	H31	確定 ●	-	-	あり	→		本来の計測対象である観光交流センターが未整備のためフォローアップは実施しない	
							見込み			なし ●				
指標3	空き店舗数	店	14	H25	11	H31	確定 ●	12	△	あり	→			
							見込み			なし ●				
指標4							確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標1	駅前大通りの路上駐車台数	台	15	H29	/		確定 ●	5			→			
その他の数値指標2					/		確定				→			
					/		見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・観光交流センターなどの整備状況(期間中の実施断念)を受け、計画期間途中に新たな指標「駅前大通りの路上駐車数」を設定したことで、実施事業である駅前駐車場の評価基準の一つとし、同事業の有用性を評価することができた。	・本計画のように複数の取り組みによるまちづくりに関するような指標の設定には、一つの事業が未実施になることにより、計測自体ができなくなるないように配慮する。
	うまくいかなかった点	・本計画に基づき整備予定であった観光交流センターが整備できなかったことにより、指標に位置づけた同センター内の観光案内所利用者数を評価時に計測することもできなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・計画期間中に、新しい指標「駅前大通りの路上駐車数」を設定し、実施できた事業との整合を図った。	同上
	うまくいかなかった点	・上記「数値目標・成果の達成」と同様	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		・特にまちづくりへの貢献が期待されるような団体とは、連絡を密にとり状況を把握しておくとともに、必要に応じて多様な支援を実施することが必要である。
	うまくいかなかった点	・主体的な取り組みを期待していた住民組織が活動休止となった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		・関係事業者等との調整を十分に図るとともに、該当事業や取組みを計画等に位置付ける場合には調整状況を踏まえた慎重な判断が必要である。
	うまくいかなかった点	・計画策定時における関係事業者との調整が不十分であり、結果として実施できない事業があった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の社会資本整備総合交付金(旧まちづくり交付金)の活用予定
今後のまちづくりの進捗状況などに合わせて検討

・今後、事後評価を予定する地区
なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成31年1月15日～2月15日	平成31年1月15日～2月15日	担当課への直接提出、 郵送、メール	建設課
広報掲載・戸別配布	広報に意見募集について掲載	平成31年2月1日号 (平成31年2月1日配布)	平成31年2月1日～2月15日		
説明会・ワークショップ					
その他	町のホームページ掲載に併せて建設課窓口に原案を配置	平成31年1月15日～2月15日	平成31年1月15日～2月15日		

住民の意見	<p>住民からの1件の意見が寄せられた。意見の内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前駐車場ができたことは高く評価する。ただ、送迎車で満車であった場合の列車利用者への配慮、飲食や仮眠による長時間占拠の規制(ただし、現地調査時には該当するような事例はなかった)など運用面での改善をお願いしたい。 ・JR羽前山辺駅舎は、歴史ある古い駅舎であることを活かした観光資源として活用してはどうか。
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	青木 俊明(東北大学大学院 国際文化研究科准教授)	平成31年2月19日	建設課	山辺町都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	樋口 和男(山辺町議会厚生産業常任委員会 委員長) 齊藤 昭彦(山辺町都市計画審議会 会長) 佐藤 忠一(駅前商店振興会 会長) 渡辺 清志(本町商店振興会 会長)				

審議事項	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
成果の評価	・評価結果については了承された。 ・ただし、指標2観光案内所(窓口)利用者数は、達成できなかったのではなく評価自体が出来なかったのだということ、かわりにその他の指標として路上駐車台数の減少を設定して達成したこと、さらに町民からも高い評価を得ていることを明記すべきとの意見を得た。
実施過程の評価	・実施過程については、適正であると確認された。
効果発現要因の整理	・効果発現要因の内容については了承された。 ・ただし、改善の方針としては、観光交流センターのあり方も含めた町の観光施策の重要性について記述すべきという意見を得た。
事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案が、町民に対して適正に公表されたことが確認された。
その他	・今後、他の計画などで観光客数を指標にする場合は、観光客の具体的なとらえ方について明確にしておくことが重要という意見を得た。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	
今後のまちづくり方策の作成	・観光交流センターの整備の重要性については認められたが、これからの町の観光施策における位置づけを明記すべきとの意見を得た。
フォローアップ	・フォローアップは適正と認められた。
その他	・観光交流センターの整備だけではなく、周辺都市の状況なども踏まえながらこれからの町の観光や商業のあり方を検討すべきという意見を得た。
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当と認められた。
その他	

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
特になし		

有識者の意見	
--------	--